

東京キリスト教学園 ボランティアセンター活動報告vol.19



2017/12/14

■いつもお祈り感謝いたします。

■献金報告

11月14日～11月17日のチャペル後の時間に募った献金(TCUボランティアセンターの活動のための献金)は合計56,909円でした。尊い献金に感謝いたします。

この献金は、今後のTCUボランティアセンターの活動のため、被災地ボランティアのために用いらさせていただきます。今後もTCUから被災地へのボランティア派遣を続けていくために、祈りと献金のサポートをよろしく願っています。

■活動報告

・被災地の『今』を知ろう！(被災地見学)

11月28日～11月30日に、「TCUの学生に被災地の『今』を見て、聞いて、知ってもらい、祈りに覚えてもらいたい」という目的で、被災地見学を企画し、TCUから6名の学生(吉橋雄介、佐藤宣愛、平井和基、馬上真輝、高梨泉、遠田ゆりな)が参加をしました。

今回は、東北の地で活動しておられる2名の牧師先生(日本同盟キリスト教団:増井恵先生、基督聖協団:中澤竜生先生)に協力いただき、先生方の被災地支援の活動を報告していただくとともに、被災地を案内していただきました。

2泊3日という短い時間ではありましたが、たくさんのお話を聞き、仮設住宅や様々な場所を見て、被災地の「今」を知ることができた良い時間となりました。

以下、参加した学生の感想です。↓

◆感想:国際キリスト教学専攻2年 遠田ゆりなさん

今回参加した被災地見学では、私の期待値をはるかに超えた多くの学びが与えられました。

私は被災地見学を通して、現在、津波で家を失った被災者の方々は、仮設住宅での生活から公営住宅での生活へと移り、一見復興がなされているように見えても、孤立化により心に大きな不安、虚しさ、寂しさが残っているということ、…原発の被災者は、「震災後、少し経ったら家に戻れる！」と期待をしていたのにも関わらず、震災から6年経った今も元の家には戻れず、また、将来も帰れる見通しが立っていないということ、…そして、被災者の方々は、前にも踏み出せず、元の状態にも戻れないという狭間で苦しんでいるということを知りました。

そのような現状の中で、被災地の教会がその地域の

の立場に立って、地域とどのような関りを持ち、仕えているのかを知り、教会の地域に対するアプローチの仕方についても考えさせられました。

また、被災地で活動しておられる先生ご自身が「震災を通して多くの人の死を目にし、何もできない自分、自分の無力さに気づかされた」、「自分は、彼ら(被災者の方々)にどれほど本気で福音を伝えたいだろうか?」と話された言葉が、私の心に深く刺さりました。被災地の教会と、祈りやボランティアを通して、これからも関わり続けていきたいという思いが新たにされる本当に良い時でした。



■これからも続く支援活動

東日本大震災から7年目を迎ようとしている「今」、震災当初と比べると、確かにいろんな変化がありました。ですが、それと同時に、人々のニーズも変化し、今なお支援の手を必要としている人がいることも事実です。

私たちにできることは、ごくわずかなことかもしれませんが、そのわずかなことのために、少しでも人に寄り添い、被災地復興のために、TCUボランティアセンターは今後も活動を続けていきます。

■献金にご協力ください

これまでのTCUボランティアセンターの活動は、諸教会からの献金により支えられた働きでした。その資金が尽きてからは派遣ごとに学内で献金を募り、活動費を満たしてまいりました。しかし、このところ資金不足が続いています。今後のボランティアセンターの働きのため、今なお続く被災地支援の働きのため献金にご協力ください。

★募集★

TCUボランティアセンターの新しいスタッフを募集しています。被災地支援に関心のある方はリーダーズ(吉橋、遠田、泉ユ、マクドエル)までご連絡ください。